

琵琶湖(湖心部)の水質概況速報(平成30年度(2018年度)第3四半期)

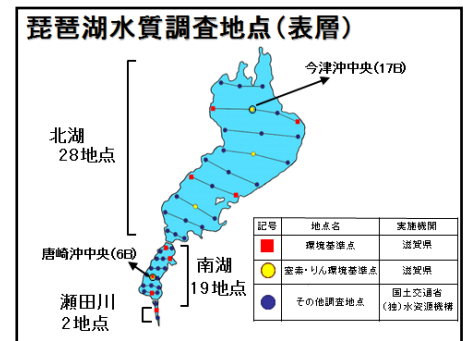
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第16条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、北湖・南湖各一地点における平成30年度第3四半期分の水質概況速報をとりまとめましたので報告します。

なお琵琶湖・瀬田川水質は北湖28地点、南湖19地点および瀬田川2地点の計49地点において、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値は平均値等の代表値とは異なること、後日修正を加えられる可能性があることをご承知おきください。

◎調査方法について

琵琶湖・瀬田川の上記49地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し、表層0.5mでの毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の水深別調査は、当センターにおいては今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約90m地点今津沖中央(通称「17B」、他1地点、南湖では唐崎沖中央(通称「6B」)において、月2回実施しています。



◎調査結果について

当センターで分担実施している北湖湖心部の今津沖中央(17B)、南湖湖心部の唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成30年度第3四半期の水質概況は次のとおりです。

○今津沖中央(17B) 調査結果

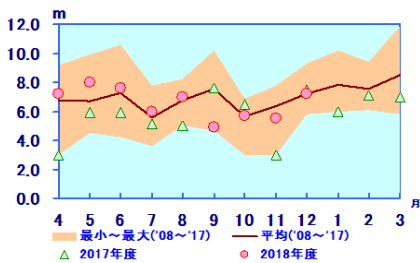
透明度については、10~12月にかけて過年度(過去10年間)平均値並みで推移しました。透明度に関連する浮遊物質(SS)も同様に、過年度平均値かやや高い値で推移しました。

有機汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)は、10月は9月に続き過年度最低値より低くなりましたが、11月は過年度平均値を少し上回り、12月は再び過年度最低値と同じ値に下がりました。

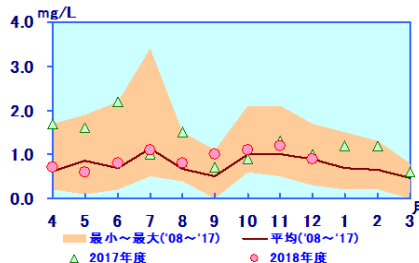
富栄養化項目については、全窒素(TN)が例年上昇する10~12月も9月とほぼ同じ値で推移したため、12月には過年度最低値を下回る値になりました。全窒素の一部である硝酸態窒素(NO₃-N)については、10月に過年度平均値を上回る値まで上昇しましたが、11月には再び枯渇しました。全りん(TP)は、過年度平均値とほぼ同じ値で推移しました。

これらの変動は、9月の大雨で流入し、または水温躍層下から回帰した硝酸態窒素やりん酸の影響で10月に一時的にこれらが増加したものの、植物プランクトンが吸収し、その後の少雨と高温で硝酸態窒素は枯渇し、この条件が有利となった大型緑藻のスタウラストルムが増殖し、CODの上昇に至ったものと推察しています。

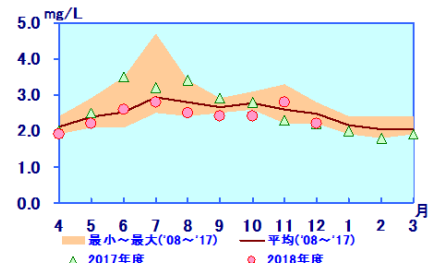
透明度経月変化(17B)



SS経月変化(17B)



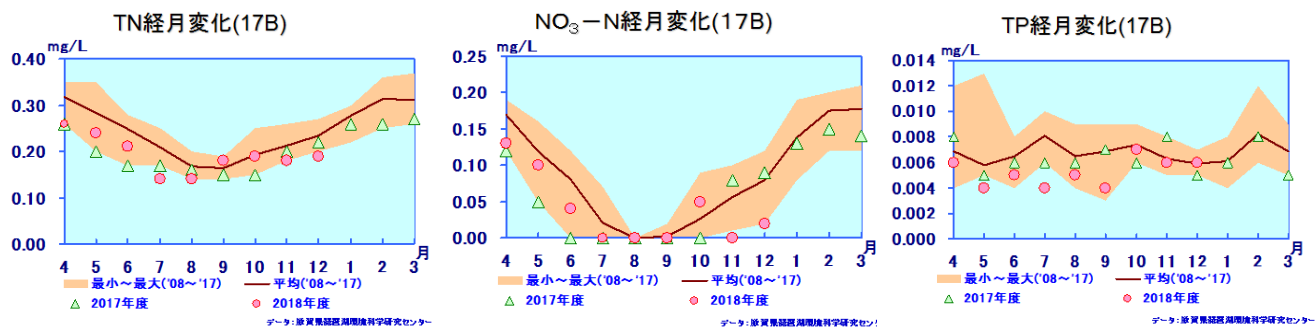
COD経月変化(17B)



データ: 琵琶湖環境科学研究センター

データ: 琵琶湖環境科学研究センター

データ: 琵琶湖環境科学研究センター



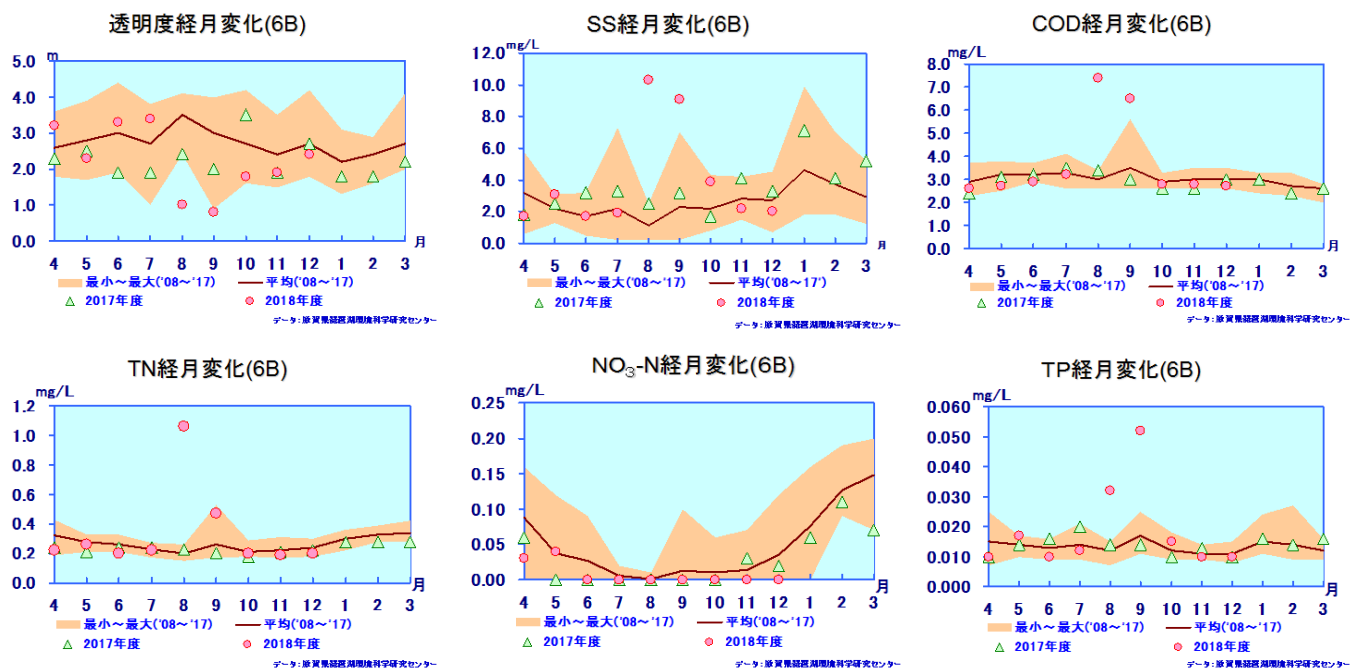
○唐崎沖中央(6B)調査結果

透明度は8~9月に大增殖した植物プランクトンが、9月の大雨による放流量の増加により流出し、透明度はやや回復しましたが、その後、緑藻が増加したため、10月と11月は過年度最低値並みと低めに推移しました。SSについても、10月は過年度最高値に近い値でしたが、11月と12月は過年度平均値をやや下回りました。

CODは過年度平均値かやや低い値で推移しました。

全窒素(TN)も、過年度平均値かやや低い値で推移し、硝酸態窒素(NO₃-N)は、10~12月も枯渇した状態が継続していました。全りん(TP)は過年度平均値並みで推移しました。

これらの変動は、10月以降の少雨と高温による放流量の減少や、それによって有利となった植物プランクトンの増殖に伴うものと推察されます。



《問い合わせ先》 〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学センター環境監視部門 公共用水域係

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: de51400@pref.shiga.lg.jp